

1 研究主題

「わかる・できる喜び」を味わわせる授業の創造
 —基礎的・基本的な事項の確実な定着と言語活動の活性化を図る課題解決学習の在り方の研究—

2 研究主題について

本校では、「確かな学力」の育成に視点をあてて研究を進めており、授業の充実が図られ、生徒が落ち着いて授業に取り組むようになってきた。しかし、基礎的・基本的な内容の定着が不十分であるために、生徒が進んで発表したり、主体的に活動する場面が少ないという面も依然としてみられる。

そこで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を目指した授業の更なる充実、生徒が目的意識を持って活動する場の設定や指導の在り方、話し合いや発表というような言語活動の充実、そして、それを支える学業指導や個に応じた指導の充実について研究・実践をより進めていくことにした。これにより、生徒は基礎的・基本的な事項を身につけるとともに「わかる・できる喜び」を身につけることができるのではないかと考えた。

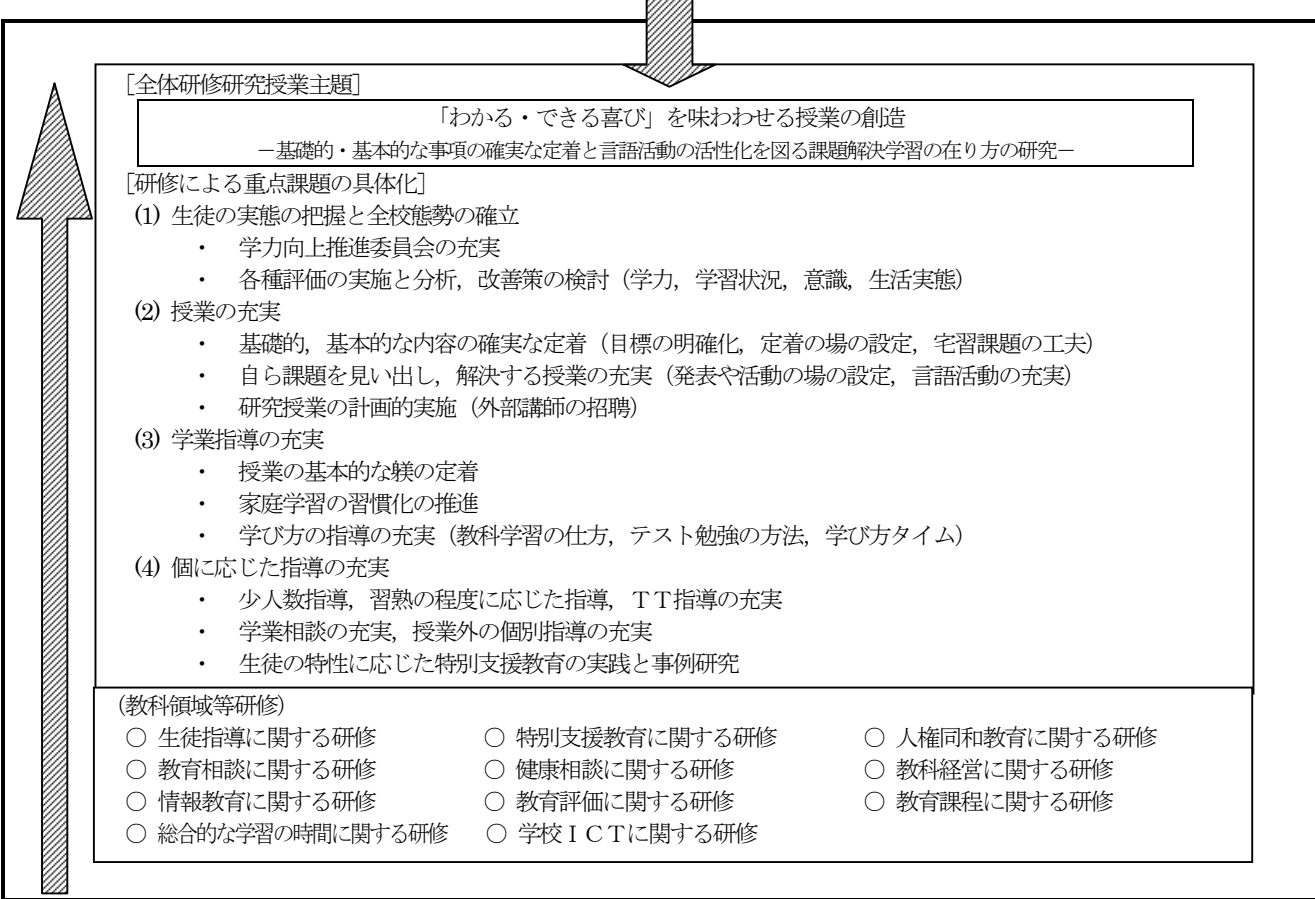
- ※新学習指導要領《総則》の重要事項として次のようなものがある。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること。
 - 基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決すること。
 - 解決のために必要な思考力、判断力、表現力を育むこと。
 - 主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実を図ること。
 - 生徒の言語活動の充実を図ること。

3 研修の全体構想

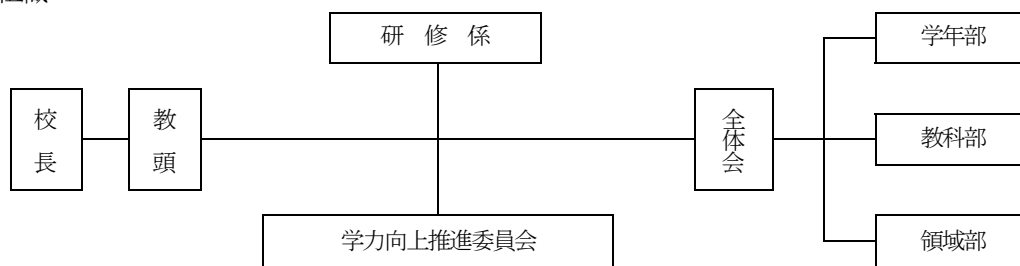
《学校教育目標》 「生命に深くこだまする明和中の生徒を育てる」
 —心身ともに健康で、確かな学力と豊かな感性を身につけ、主体的に活動する生徒を育成する—

【重点課題】 ～生徒自らが気づき、考え主体的に行動する学校の創造～

(1) 確かな学力の育成 (2) 心の教育の充実 (3) 生徒指導の充実 (4) 総合的な学習の時間 (5) 中小連携・地域連携



4 研修組織



5 今年度の取り組み

月	日	曜	研修項目	おもな研修内容	講師	担当
4	12	月	研究テーマ及び年間計画話し合い	テーマ及び年間計画の確認		研修係
			学校ICT研修会	ICT機器の活用法について		情報教育係
5	10	月	生徒指導①	家庭訪問後の共通理解事項の確認		生徒指導部
			特別支援教育	年間計画の確認、1学期の方針等		特別支援教育係
6	7	月	小中連携研修会に向けて	領域ごとの現状、課題の確認		研修係
			性教育	性教育について		保健係
	21	月	小中連携研修会	※22年度は小学校会場	○	研修係
7	21	火	標準学力検査の分析の方法	標準学力検査分析の視点について	○	学力向上推進委員会
			生徒指導②	不登校及び不登校傾向生徒への対応策	○	生徒指導部
8	2	月	健康教室 (AED)	救命救急講習—AEDの使用法—		保健係
			標準学力検査の分析について	分析内容の連絡と次時の提案		学力向上推進委員会
	20	金	情報教育	パソコン研修(情報機器の活用法)		情報教育係
			進路指導	キャリア教育について	○	人権同和係
31	火	標準学力検査の分析・学力向上	教科ごとの分析結果の報告及び2学期からの学力向上に向けての共通理解		学力向上推進委員会	
9	6	月	生徒指導(特別支援教育含む)	1学期以降の生徒の変容についての確認	○	特別支援教育係
10	4	月	研究授業を通して (道徳)	生徒の主体的な活動を促す指導法研究	○	道徳部
11	22	月	研究授業を通して (特活)	生徒の主体的な活動を促す指導法研究	○	特活部
12	13	月	研究授業を通して (教科)	言語活動の活性化を図る指導法の研究		教科部
1	17	月	特別支援教育	本年度の反省と次年度へ向けて		特別支援教育係
2	7	月	本年度の研修の成果と課題	次年度のテーマ及び取り組みの確認		研修係

6 本年度の実践

(1) 本校の学力の実態把握

① 基礎基本定着度調査の分析と各教科の具体策の検討 (4月)

② 標準学力検査(NRT)の分析の仕方についての研修の実施(8月)

③ 標準学力検査(NRT)の分析と具体策の検討(8月下旬)

NRTの分析を基に、2学期からの学習指導に対する具体的な取り組みを各教科や学年毎に話し合った。

(2) 学力向上委員会の役割

① 開催日 - 適宜設定

② 構成 - 校長, 教頭, 学年主任, 学業指導係, 教科代表計7名

③ 内容 - 学力に関する現状と課題・解決策の協議, 実践化に向けての具体策の検討

- ・ 学力の実態分析について
- ・ 家庭学習に関するアンケート分析
- ・ 学び方タイムの進め方について
- ・ 各教科・学年の取り組み事例の検討
- ・ 共通実践事項について等課題と解決策の協議

【成果】・様々な立場からの意見をもとに課題を明らかにし, 実践への方向付ができた。

・学力に関する情報提供をすることで, 学力向上に対する職員の意識も高まった。

・事前に打ち合わせをすることによって, 会の内容が充実していた。

(3) 学び方を身につけさせる指導

① 授業の基本的な躰の定着

ア 年度始めに, 授業中の基本的な約束について共通理解を図り, 実践に取り組んだ。

イ 学力向上推進委員会で, まずは小さな共通実践が学力を高める第一歩であると考え, 授業の始まりや終わりの行動の在り方について再確認等をし, 共通理解・共通実践を図っている。

② 家庭学習の習慣化の推進

ア 毎日の家庭学習の目標(1・2年→2時間, 3年→3時間)

イ 3点セット, 4点セットの提出(生活の記録, 英語の宅習, 漢字練習)

③ 学び方の指導の充実(教科学習の仕方, テスト勉強の仕方, 学び方タイム)

ア 「学び方タイム」(年間4回)の設定と充実

学級活動の時間に, 学業指導の時間「学び方タイム」を3回設定した。

主な内容は以下の通りである。生徒の実態に即して内容を検討した上で実施している。

1 年	2 年	3 年
学習の仕方を学	家庭学習の仕方を学ぶ	中間テストに向けて計画を立てる
家庭学習の仕方を学ぶ	調べ学習の仕方を考える	家庭学習について考える
テストの予想問題をつくる	苦手教科の克服をする	入試までの目標を立てる
テスト結果の分析をする	厚物の活用の仕方を考える	入試までの学習の仕方を考える

(4) 授業での実践

① 基礎的・基本的な内容の確実な定着

各教科で学習目標を必ず板書するよう共通理解し, 学習過程に定着の場を位置付けたり, 宅習課題の出し方について共通実践を図ったりしている。

② 生徒が自ら課題を発見し, 解決する授業の充実

各教科で指導過程を工夫したり, 発表や活動の場を設定したりしている。

③ 研究授業の計画的実施

全職員による研修を推進するために, 研究授業の日は5時間授業で生徒は下校させ, 6校時に研究授業を設定し, 放課後授業研究を実施した。

ア 道徳研究授業(3年)・・・10月4日(月)実施

主題名「人間の気高さ」

資料名「塩狩峠」NHK DVD「プロジェクトX挑戦者たち 絶体絶命650人決死の脱出劇」

イ指導目標

- ・内容項目3ー 人間には弱さや醜さを克服する気高さがあることを信じて、人間として生きることと喜びを見いだすように努力する。

④ 個に応じた指導の充実

ア 少人数指導，TT指導の充実，選択教科の指導の充実

(ア) 習熟度の程度に応じた指導(3年数学，2・3年英語)

全時間2クラスを3コース，または1クラスを2コースに分け，少人数でそれぞれ指導

- ・2年基礎基本コース，総合コース
- ・3年基礎基本コース(1コース)，総合コース(1コース)，演習コース(1コース)

《コースの決め方》

生徒・保護者の希望をもとに決定するが，必要に応じて担当教師も相談を行う。途中でコースを替わることもできる。

(イ) TT(ティームティーチング)

- 理科…実験を中心に実施。1，3年は週2時間，2年は週3時間実施
- 数学…2年生で実施。各学級週2時間

【成果】・習熟の程度に応じた指導，少人数指導等を実施し，個に応じたきめ細かな指導ができるようになった。

- ・生徒の習熟の程度に応じた指導を実施し，生徒の学習に対する意欲も深まり，真剣に取り組む生徒が増えた。
- ・理解不足の生徒に対して，時間をかけて指導でき，授業への集中力や意欲が増してきた。
- ・理解の早い生徒やコースは，応用的な問題にも取り組ませた。
- ・少人数による指導で，発表や活動の機会が増え，生徒が学習に意欲的に取り組み，集中するようになった。
- ・TTは授業を二人の教師で指導するので，机間指導や実験等でのきめ細かな指導ができるようになった。

⑤ 学業相談の充実

- ・学び方タイムでの個別相談の実施
- ・定期的な教育相談の実施1学期(5時間)，2学期(5時間)
- ・数学科の習熟の程度に応じた指導のコース選択や選択教科のコース選択等においては，随時相談を実施

⑥ 授業時間外の個別指導の充実

- ・始業前，昼休み，放課後等に随時個別の指導に当たっている。
- ・学年で期間を決めて，放課後に定着の不十分な生徒の指導を分担して行っている。

⑦ 授業についての教師の自己評価と生徒のアンケート，外部のアンケートの実施

- ・教師の授業改善と生徒の学習への取り組みの改善を図るために，全職員の自己評価，全学級のアンケート，各教師1クラスのアンケートを毎学期実施している。また，PTA役員，学校評議員によるアンケートも年1回実施している。教師が自分の授業の改善の視点を得る上で有効である。

8 今後の課題

- (1) 教師・生徒を対象に実施した授業に関する評価やNRTの分析の結果，定期テストの結果を真摯に受け止め，生徒が積極的に授業へ取り組めるような指導の改善・工夫をしていきたい。
- (2) 評価後の分析と手立てを工夫することによって，評価と指導の一体化を図りながら，基礎・基本の定着や生徒自ら課題に取り組ませるために，日々の授業の更なる充実を図っていきたい。
- (3) 生徒の学習意欲を高め，活気のある授業をつくる工夫が必要である。
- (4) 職員研修の時だけの話し合いで終わらないようにするために，教科や学年，係会等で具体化への話し合いをし，共通理解事項を組織的に実践できるようにしたい。
- (5) 特に教科部会の充実を図り，指導内容や指導方法等について深く研究し，お互いの授業力を高める取り組みを推進したい。